

平成27年度 周南市友好親善訪問団報告書 (デルフザイル市)



周南市



あいさつ

周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな青少年を育成することを目的に、中高生を姉妹都市へ派遣する事業を行っております。平成二十七年度は、青少年九人、食文化交流会に参加される一般の方二人、同行職員二人の計十三人による友好親善訪問団がオランダのデルフザイル市を訪問しました。

デルフザイル市には、平成二年の姉妹都市提携以来、十二回目の訪問となりました。青少年の団員達は、訪問先でホームステイをしながら、デルフザイル市の人々とのさまざまな活動を通して、オランダの伝統や文化を学ばれるとともに、日本の伝統文化

を伝えるなどし、積極的な交流に努めてこられました。食文化交流会に参加された団員の方におかれましては、現地の料理人をはじめ多くの方に日本の食の魅力を紹介されるとともに、食を通じて十分に交流を深めてこられました。

この報告書は、こうした団員一人ひとりのかけがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

このたび団員として参加された皆さんには、デルフザイル市での経験を通過して得られた自信や学びを自らの成長の糧とされ、今後、活躍の場をますますと拓げられるとともに、末永く姉妹都市を大切に思い続けていただきたいと思います。

終わりに、本事業の実施にあたり、デルフザイル市役所や実際に日々の活動プログラムを計画された姉妹都市交流財団の方々、さらには、団員を温かいおもてなしで受け入れていただきましたホストファミリーの方々から感謝申し上げます。

周南市長 木村 健一郎

姉妹都市提携までのあゆみ

国際化時代が叫ばれる中、姉妹都市の必要性を認識し、候補地を探していたところ、地元企業である株式会社東ソーにより、オランダのデルフザイル市が紹介された。国際貿易に基本を置く港湾化学工業都市であるという類似した都市形態を背景に、互いの文化、生活様式の相違性の理解を深めることが大切であるとし、平成2年5月22日に姉妹都市提携調印団をデルフザイル市に派遣して、調印を行った。



De IJzijl

(デルフザイル)

Netherlands Groningen (オランダ フローニンゲン)

デルフザイル市について

市の概要

デルフザイル市は、オランダのフローニンゲン州北部に位置する港湾都市である。岩塩と天然ガスの発見により化学工業を主体とする工業の街として発展した。また、自然の良港を有し、周南市と都市形態が似ている。住宅街はレンガ造りの瀟洒な家並みが並び、自然を多く残した美しい街である。(デルフザイルという名は、デルフ川にあった水門「ザイル」に由来している。)

- 人口／約25,000人
- 面積／約227 km²
- 言語／オランダ語、英語
- 通貨／ユーロ (EURO)
- 交通／アムステルダムから車で約3時間



概略日程

7/30(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 6:34 ● 7:36 ● 10:45 ● 15:10 	周南市 福岡市 福岡空港 ● アムステルダム	徳山駅出発(新幹線こだま 821号) 博多駅到着、福岡空港へ移動、出国手続 福岡空港出発 (KLM オランダ航空 870 便) スキポール空港到着 入国手続 市内ホテル宿泊
7/31(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 ● 午後 ● 17:00 	● デルフザイル	市内視察 (国立博物館、アンネの家、運河等) デルフザイルに移動 デルフザイル到着 市役所にて歓迎会、ホストファミリーに面会 青少年: ホームステイ
8/1(土)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 ● 午後 		ホストファミリープログラム 姉妹都市絵画展オープニング参加 ファームサム散策 (エオリスの風車など) 交流会 (バーベキュー、オランダの伝統ゲーム) 青少年: ホームステイ
8/2(日)	<ul style="list-style-type: none"> ● 終日 		ホストファミリープログラム 青少年: ホームステイ
8/3(月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 終日 		食文化交流会 ホストファミリー&青少年: バス観光 青少年: ホームステイ
8/4(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 終日 		ホストファミリープログラム 青少年: ホームステイ
8/5(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 ● 午後 		消防署視察 農場見学、お別れ会 青少年: ホームステイ
8/6(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 ● 午後 	● ユトレヒト	デルフザイル出発 ユトレヒト到着、市内視察 (オルゴール博物館、ドム塔、セントラルミュージアム等) ホテル到着、宿泊
8/7(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前 ● 12:00 ● 14:45 	● アムステルダム	ユトレヒト出発 空港へ スキポール空港到着、出国手続 スキポール空港出発 (KLM オランダ航空 869 便) 機内泊
8/8(土)	<ul style="list-style-type: none"> ● 8:20 ● 10:43 ● 11:30 	福岡空港 福岡市 周南市	福岡空港到着、入国手続、博多駅に移動 博多駅出発 (さくら 546 号) 徳山駅到着

周南市友好親善訪問団員名簿

平成27年度
De l'zijl
友好親善
訪問団



ユトピト ドム塔前にて

周南市立富田中学校 2年
P11 岡崎 芽生 Meio Kazaki

周南市立熊毛中学校 1年
P13 河谷 宇泰 Uta Kawatani

周南市立岐陽中学校 3年
P15 久保 直輝 Naoki Kubo

周南市立菊川中学校 2年
P17 三浦 彩未 Ayami Mura

周南市立岐陽中学校 1年
P19 柳 凜 Rion Yanagi

周南市立富田中学校 2年
P21 渡辺 夏生 Natsuki Watanabe

山口県桜ヶ丘高等学校 1年
P23 今浦 朱里 Shurimura

山口県立華陵高等学校 1年
P25 北村 優香 Yuka Kitamura

聖光高等学校 2年
P27 廣林 晃 Hikaru Hirobayashi

食文化交流会参加者
P29 今倉 満枝 Mitsue Imakura

食文化交流会参加者
P31 原田 康宏 Yasuhiro Harada

周南市役所地域振興部観光交流課
P33 徳原 常臣 Tsuneomi Tokuhara

周南市役所環境生活部生活安全課
P35 山本 次雄 Tsugio Yamamoto

周南市友好親善訪問団活動の様子

n オランダ・デルフザイル 7月30日～8月8日 同行者:徳原 常臣 記

7月30日(木)

早朝6時34分、多くの方に見送られ、徳山駅を出発しました。

事前説明会で何度か顔を合わせていたせいか、団員たちは出発の時点で既に打ち解けた様子で、表情を見ていると、不安よりもオランダを訪問できるという喜びに満ち溢れていました。

10時45分に福岡空港を出発し、約12時間のフライトを経て、現地時間の15時10分にアムステルダムスキポール空港に到着。ホテルに向かうバスの中から見える景色や街の雰囲気、オランダへ着いたことを実感させてくれました。団員たちもオランダへ到着した興奮からか長旅の疲れを忘れ、写真を撮る姿が見られました。

この日は、ホテルへ到着したのが夕方ということもあり、夕食を取り就寝しました。



福岡空港にて



オランダといえば運河！



ホテルにてオランダ初の食事

7月31日(金)

最高気温でも20℃前後と過ごしやすい気候の中、午前中はアムステルダム市内を視察。アンネフランクの家や国立博物館を見学しました。美しい街並みに感動し、たくさんの写真を撮りました。そして、どこへ行っても想像以上に自転車が走っていました。さすが自転車大国！

昼からは、いよいよデルフザイル市へ向け出発しました。バスに揺られること約3時間、デルフザイル市役所に到着。庁舎の前では、音楽隊のみなさんの演奏とともに、たくさんの方が盛大に出迎えてくださいました。



国立博物館前で



音楽隊によるお出迎え



三浦さんの挨拶

到着後は議場にて歓迎会が行われました。

歓迎会の最後は三浦さんによる英語の挨拶です。たくさんの方が見守る中、堂々と大役を果たしてくれました。

そして、歓迎会終了後は、いよいよホストファミリーとの対面です。団員が最も緊張した瞬間だったと思いますが、ホストファミリーの温かい笑顔が、すぐにみんなに安心感を与えてくれました。



ホストファミリーとの初対面

8月1日(土)

テルフザイル2日目。食文化交流会の準備をされる今倉さん以外の団員は、午前中、この日から公立図書館で開催される「姉妹都市絵画展」のオープニングイベントに参加。午後からは、ホストファミリーと共に永源山公園のゆめ風車のモデルになったエオリスの風車があるファームサム地区を散策しました。

散策後は、バーベキューをしたり、オランダの伝統的なゲームをしたりと交流を深めました。団員たちは、昨日初めて会ったとは思えないほど、ホストファミリーと打ち解けた様子でした。



今倉さん、北村さんが除幕しました



BBQおいしかったです



けっこう疲れしました



今倉さんはテルフザイル市のシェフボアさんと食文化交流会の準備です

8月2日（日）

この日は青少年の団員たちにとって、最初のホストファミリープログラムの日です。それぞれがセーリングをしたり、フローニンゲン市へ観光に行ったりと過ごし方は様々だったようですが、ホストファミリーと交流を深める充実した時間となったようです。

私は、団長、食文化交流会参加者の方と午前中はドラルト湾クルージングを楽しみました。セール張りを初めて体験しました。

午後からは、電車に乗ってフローニンゲン市内まで行き、繁華街を案内していただきました。



フローニンゲン市の繁華街

8月3日（月）

この日は、食文化交流会の日です。今倉さんは、朝から会場となるエムスホテルのキッチンでデルフザイル市のシェフと一緒に調理開始です。その他の団員は、ホストファミリーと共にバスでデルフザイル市周辺の観光地を巡りました。昼食では、食文化交流会「昼の部」として日本食を食べていただきました。オランダの方でも抵抗なく食べていただけるようなメニューを今倉さんに考えていただいたので大好評でした。また、団員たちも久しぶりの日本食に自然と笑顔がこぼれていました。



swiene parredies（豚の楽園）



まずは入念な打ち合わせから



久しぶりの日本食

夕方からは、デルフザイル市役所関係者、マスコミなどをお招きして食文化交流会「夜の部」を開催しました。夜の部は、今倉さんに日本食の紹介を、原田さんには日本酒の紹介をしていただき、参加者へ振る舞われました。昼の部と同様に日本食、日本酒とも高評価を受け、マスコミにも大きく取り上げられました。今回の訪問の大きな目的であった「日本の食文化の魅力、素晴らしさを紹介する」ことを達成できたと思います。今倉さん、原田さんお疲れさまでした！



原田さんによる日本酒の紹介

TV局も撮影に来ました

「夜の部」の1番人気はお好み焼き



8月4日（火）

この日は、訪問中で唯一、雨が降った日でした。青少年の訪問団は、終日フリーでホストファミリーと過ごしました。ホストファミリー同士で集まって過ごしたところもあったようです。

大人の訪問団員は、姉妹都市交流財団のリチャードさんに企業訪問や彫刻体験に連れて行ってもらいました。



ケミーパークにて企業訪問



この状態から → ここまで仕上げました

8月5日（水）

いよいよデルフザイルでのプログラム最終日です。午前中は全員で消防署を見学しました。消防署では、いくつかのグループに分かれ、放水訓練、救命ボートに乗って運河下り、消防車に乗ってドライブなどアクティビティを行いました。



運河下り



放水訓練

昼食後は、タームンテンの教会周辺を散策した後、ダーウィンケルさんの農場を訪問しました。搾乳がオートメーション化されていたり、床をお掃除ロボットが掃除していたりと、そのハイテクぶりに驚かされました。



高い空に良く映える



取り付けから全て自動の搾乳機



搾りたてはやっぱり美味しい

夕方からは、市役所近くのレストランでお別れ会が盛大に行われました。たくさんの種類のオランダ伝統料理をいただきながら、最後の交流を行いました。

お別れ会のクライマックスは、私たちの感謝の気持ちを伝える出し物です。最初は、『フローニンゲン州歌』を歌いました。練習が十分ではなかったですが、何とか歌うことができました。次に、ドラえもんのおオープニングテーマ『夢をかなえてドラえもん』を歌いながらバルーンアートを作りました。途中で音響機器が動かなくなるというハプニングがありましたが、バルーンやうちわ、折り紙などを会場の皆さんにプレゼントして喜ばれ、大いに盛り上がりました。

お別れ会の最後は、岡崎さんがホストファミリーやお世話になった方々へ英語によるお礼のあいさつで堂々と締めくくってくれました。

今夜が最後の夜ということもあり、話は尽きないようで、お別れ会終了後もしばらく子供たちが立ち話をする姿が見られました。



岡崎さん頑張りました



団長の挨拶



すっかり家族の一員です



バルーンとうちわのプレゼント



出し物のMCは廣林くん

8月6日（木）

ついにホストファミリーとのお別れの日がやってきました。6泊7日という短い期間にも関わらず、充実した、かけがえのない時間を過ごすことができた証として、多くの団員が涙していました。そんな団員達を見て、ホストファミリーの方々も涙を流し、お互いに別れを惜しむ姿はとても感動的でした。

ホストファミリーとのお別れの余韻を残しつつ、バスでユトレヒトへ移動し、午後からドム塔とオルゴール博物館とセントラルミュージアム（ミッフィー展）を見学しました。日本でも馴染みのあるミッフィー展は団員も大喜びでした。

夕方に少し時間があつたので駅に隣接するショッピングモールでそれぞれお土産を購入しました。持て帰ることができるか心配になるほど「爆買い」する団員もいました。



なかなかバスに乗り込めませんでした



意外と男子も楽しんでいました！

8月7日（金）、8日（土）

いよいよオランダを発つ日となりました。午前中はユトレヒトの繁華街を少し散策して、昼前にスキポール空港へ向かいました。昨夜はオランダ最後の夜ということで、団員達はかなり遅くまで起きていたようで、移動のバスの中は寝てしまう団員が多く、とても静かな移動となりました。

スキポール空港では、お土産が重かったのかスーツケースの重量オーバーが続出。慌てて手荷物に積み替えるなどバタバタしましたが、帰りのフライトでは、多くの団員が熟睡しており、時差調節も上手くできたようです。

福岡空港に到着すると、まずその暑さが日本に帰ってきたことを実感させてくれました。オランダは気温も湿度も過ごしやすく快適だっただけに、余計に蒸し暑さを感じました。そんな暑さの中、大きなスーツケースを持っての移動は大変でしたが、団員たちは最後までてきぱきと動いてくれました。

徳山駅に到着し、迎えに来られた家族の姿が見えた瞬間、団員達の安堵の表情を伺うことができました。私も団員達を無事に家族の元へ送り届けることができ安堵したことを覚えています。

徳山駅構内で解散となり、10日間の全日程を終了しました。家路に向かう青少年の団員の表情を見ると、出発する前よりも自信に満ちた表情で、10日間の経験が充実したものであったことを物語っていました。

この10日間が、団員にとって、人生におけるかけがえのない経験となったことは間違いありません。

今後も姉妹都市デルフト市を大切に思い続け、周南市の国際交流事業に少しでも携わっていただければと思います。



ホストファミリーと一緒に記念撮影。
全員明るく、とても優しく接して下さいました。



周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立富田中学校 2年

岡崎 芽生

Mei Okazaki

私にとって初めてつくしの七日間、沢山の思い出が詰まった貴重な時間でした。今回のデルフザイル市訪問は私にとって初めての海外、ホームステイでした。

ホストファミリーと面会するまで、ずっと緊張とわくわくする気持ちでいっぱいでした。同時に、言葉が通じなく、さらに「コミュニケーションが取れなかったらどうしよう、という不安感もありました。しかし、ホストファミリーは笑顔で優しく迎えて下さいました。

私は英語にとっても興味があり、将来留学することを考えています。小学生のときから、中学生になつたら絶対に参加したいと思っていました。だから、参加することが決まっても嬉しかったです。

いよいよホームステイが始まり、緊張も解けて初日から沢山の会話をしました。しかし、伝えたいことがあるけど英語でどうやって話せば良いのかわからず、戸惑った場面が多々ありました。でも、ジェスチャーを混ぜながら伝えると笑顔で答えてくれてとても嬉しかったです。また、オランダ語を教えてもらい、私は日本語を教えてあげることもありました。オランダ語は独特の発音があり、とても難しかったけど、少しだけ話せるようになったので嬉しかったです。

滞在中、私は沢山のオランダ料理を食べさせていただきました。その中でも一番印象に残っているのは、ドロップ。これは、味を例えているのなら、タイヤのコム。



1



2

- 1 羊の放牧場に連れて行ってもらいました。規模がとても大きく、間近で羊を見ることが出来ました。自然の豊かなオランダならではのことだなあ、と感じました。
- 2 ボートからの眺めです。運河にはハウスボートが多く見られました。
- 3 ホームステイ先の飼い犬、Beau(ベウ)。アメリカン・ブルドッグでとても大きかったです。
- 4 ホストファミリーの長女マリーカとおそろいと色違いのプレスレットです。
- 5 私が持参したインスタント味噌汁を他のホストファミリーにもご馳走しました。みんな「おいしい」と言ってくれました。



3



5



4

オランダ人はみんな「おいしい」といってニコニコしながら食べていたけど、私にとってはお世辞でもおいしいと思える味ではありませんでした。でも、挑戦するときには楽しかったです。

私は他にショッピングをしたり、ボートに乗ったり、キヤンドルを作ったり、BBQをしたりしました。ショッピングとBBQは、毎日のようにしました。そして、毎日夜の十二時過ぎまで遊んでいました。日本ではありえないことで、すごく驚きました。初めてのボートは揺れるとき怖かったけど言葉は見ることの出来ない、水上からの景色を見ることが出来て楽しかったです。ショッピングをして思ったことは、オランダのものは全て大きいという事です。食べ物のサイズが大きく、どのショッピングセンターも一つの町のように規模が大きく、服のサイズは私にはXSで少し大きいくらいでした。又、家も大きく、庭は広く、自転車も大きく乗るのが大変なくらいでした。全てが大きくびっくりしました。

滞在中、日本とは違う異文化に触れ、毎日が驚きの連続でした。今回のホームステイは私にとってかけがえのない貴重な経験となりました。そして、すごく楽しかったです。絶対にいつかまたオランダを訪れようと思います。

今回、この訪問に協力して下さった市役所の方々と、気持ちよく見送ってくれた両親に感謝します。ありがとうございました。



僕のホストファミリーです。みんなとても優しかったです！



周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立熊毛中学校 1年

河谷 宇泰

Uta Kawatani

僕は、この友好親善訪問団に参加してオランダ・デルフザイルに行くのを楽しみにしていました。なぜなら、二年前に僕の姉がこの訪問団に参加して、オランダにたくさんの方ができていたからです。僕も中学生になったら、必ずデルフザイルに行くぞ！と決めていたので、実際に行けることが決まるときは本当に嬉しかったです。

僕はオランダに着いたとき、街の美しさに驚きました。今までテレビや写真で見ていたヨーロッパの街並みが、そのままそこにありました。レンガの建物、きれいな芝生、僕は感動して、たくさん写真を撮りました。図書館の中も、日本とは少し様子が違いました。日本の図書館は落ち着いた雰囲気ですが、オランダの図書館はカラフルでポップで明るい雰囲気です。僕はオランダに着いてからずっとウキウキしていました。

僕のホストファミリーは四人家族です。十四歳のヤコライン、十八歳のマールリン、二人ともこの友好親善訪問団に参加したことがあります。日本に来たことがあります。そういう訳で、とても日本が好きだと言っていました。家の中にも、日本の置物(大仏の頭)があつたりしておもしろかったです。僕がお土産として持っていったけん玉で、家族で競って遊んでくれました。そして、ホストマザーがだるま落としをインテリアとして柵に飾ってくれました。

僕は、オランダの食事にもとても興味がありました。それは、オランダは世界で一番平均身長が高い国だと姉から聞いていたからです。その秘密は、食事にあるのだろうかと思っていたのですが、実際にオランダで数日間生活して感じたことは、食べる量は日本とあまり変わらないということです。結局僕は決定的な違いを見つけることができなくて残念でした。



↑ 家で Marin とサッカーを観ているところです。家はとてもリラックスできました。



↑ 生まれて初めてのオープンカー！気持ち良かった！



↑ 散歩中 Roy から Are you tired? と聞かれ、Yes と答えたらおんぶしてもらえました！ラッキー！



ナインチェとみんなと！またみんなでオランダに行きたいです！



↑ ペットショップ？に連れて行ってもらいました。かわいい子犬を抱っこしました！

でもオランダでは、天気が良ければ外で食べたり、家族が楽しそうに話をしながらゆったりと食べているのが印象的でした。そこが、世界一の秘密なのかはわかりませんが、とてもいい習慣だなと思ったので、これからは僕も家族とゆったり食事を楽しむようにしたいです。

僕がオランダで一番に残ったことは、家の近くの公園でヤコラインとマーリンと一緒にバスケットボールをしたことです。僕はあまり英語が話せないので仲良くなれるか心配でした。でも、ヤコラインから、五回クルクルと回ってシュートしてごらん、と簡単な英語とジェスチャーでいわれ、その通りにした僕がフラフラになってへなちょこシュートをうつたときに大笑いしてくれて、そこから一気に仲良くなれました。スポーツって素晴らしいなと思いました。

日本に帰ってから、ホストファミリーとはインターネットを使って連絡をとっています。オランダに友達ができて本当に嬉しいです。今回この訪問団に参加できてとても幸せでした。ありがとうございました。



4
ホストファミリーの家のロバのリザ、ルル、
オーハバツ



周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立岐陽中学校 3年

久保 直輝

Naoki Kubo

私はこの訪問で、初めて海外に行きました。そして多くのことを学んで日本に帰ることができました。

私は壮行会の時に「私の将来の夢はオランダでフットのフットサル選手になることです。そのために私はオランダでしか味わうことのできないものを感じ取ってきたいと思います。」と言いました。実際に現地ではオランダ人だけの環境で彼らとコミュニケーションを充分にとることができたので、周南市友好親善訪問団としてオランダを訪問したことは成功で終わったと思います。

オランダを訪問する前は日本人とオランダ人は異なった点ばかりと思っていたけれど、実際は公用語と体格と顔と文化が違っていただけであって、人間の根本的な「心」という部分は同じであって、彼らは困っていた私に手を差し伸べてくれました。もちろん、全員がそういう人ではなかったけど、親切な心を持っているという面では日本とそんなに変わっていませんでした。

オランダに行って向こうの文化に触れたことで日本の文化を大切にしようと思う心も出てきました。命をいただくことに感謝する「いただきます。」や「ごちそうさま。」は本当に日本だけの文化で、オランダ人は「食べ物を食べる」ことができることに感謝というものがなかったのです。私は一人の日本人として「なに」についても食事の前後にそれらの言葉を言い、日本の文化を尊重して生きていきたいです。



- 1 ホストファミリーの家で飼われていた、犬のフィップとステップです。
- 2 ホストファミリーのフリッツ君。とても背が高く親切で庭でサッカーをしてお互いの仲を深めました。
- 3 お別れ会の時に、フリッツ君と遊んだ時の写真です。
- 4 ホストファミリーの庭でたまたま見つけたトマト。オランダのトマトは生育が早く、食べてみるととてもおいしかったです。



ふと、訪問のことを思い出してみたら、庭にあったトマトを食べたこと、ホストファミリーのフリッツ君とサッカーをしたこと、アンネの家を訪れたこと、ホストファミリーの二匹の犬であるフィップとステップと遊んだこと、ボートに乗ったことなどいろいろなことが浮かんできます。この訪問で過ごした十日間是非常であつて日常では絶対に味わうことのできないものをくれました。また、私の「オランダでプロフットサル選手になる」という夢に近づけてくれました。

この訪問に関わった方々に本当に感謝します。今回の訪問は私の大切な思い出で、私の夢の序章に過ぎません。私は必ずオランダでプロのフットサル選手になります。





お別れ会の後ホストファミリーと撮った写真です。後ろの風車がライトアップされていて綺麗でした。みんなの笑顔が素敵です。

周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立菊川中学校 2年

三浦 彩未

Ayani Miura

私は、この訪問団に参加してたくさんの方の貴重な体験をしました。出発の日、楽しみな気持ちもありましたが不安もありました。オランダに行ったときは「海外に来た」という実感がわきました。夏なのに寒く感じ、地域によって気温差があることが分かりました。私が驚いたのが自転車の専用道路があったことです。バスから降りるとき「自転車に気を付けて」と言われました。

二日目に、ホストファミリーと会いました。一番楽しみにしていたホームステイが始まることにとってもうきうきしていました。

ホストファミリーの家に行き、英語だけの生活が始まりました。私にはオランダで、日常生活で英語が使えるくらいたくさん学んで帰りたいという目標がありました。しかし、ホストファミリーと英語も伝わらないし、言っていることが理解できないし、いろいろな苦戦しホームシックになりました。楽しいという気持ちはなくなり不安を抱えながら三日目の朝を迎えました。

午前中にホストファミリーと一緒に過ごし、午後からは図書館での姉妹都市絵画展に行き、その後バーベキューをしてオランダの伝統の遊びをしました。楽しく遊んで自然と会話が弾んできてホストファミリーと楽しい時間を過ごしたことによって不安がなくなりました。

四日目には今日の予定を理解することができたのでとてもうれしかったです。この日私は、初めて思





2



1

を伝えることができました。それはホストファミリーと一緒に写真を撮ることです。このことがきっかけで自分から積極的に話しかけることができるようになっていきました。

五日目は、食文化交流会の日でした。私の習慣となった犬のポニーとの散歩中にホストファミリーのマユエラと日本食について話しました。「日本食の中で寿司が好き」と言ったので「私も好きだよ」と伝えることができました。寿司は海外の人にも人気があると思いました。

六日目は三件のホストファミリーとバーベキューをしました。自分の家とは少し違い、お肉をナイフとフォークを使って食べます。そのあと鬼ごっこをしたりしました。オランダにも日本と同じような遊びがあり驚きました。

七日目はホストファミリーと過ごす最後の日です。デルフトサイル市を観光し、その後お別れ会があり、最後に楽しい時間を過ごすことができました。別れの時が来ることをすごく感じた日でした。

最終日の朝、ずっと泣きそうな気分でした。ホストファミリーとの別れは本当につらく、やはり泣いてしまいました。ホストファミリーと過ごした七日間、いろいろな所へ連れて行ってくれて、たくさんの思い出を作ってくれて毎日が本当に楽しかったです。英語がなかなか話せなかった私にすごく優しく、温かく接してくれたホストファミリーのファン・ダイク一家には本当に感謝しています。

もっと英語を話せるようになっていつかまたに必ず会いに行きます。



3



4

1 海の見える高い展望台で撮った写真です。景色がすごくきれいでした。

2 最終日に消防署に行き消防車の前で撮りました。ホースを使って的に当てたりしました。いろいろな体験ができ、とても楽しかったです。

3 バーベキューの後、3件のホストファミリーと一緒に撮った写真で、夜の10時半ごろです。日頃この時間に外に出ていることがないのでちょっと大人になった気分です。

4 セントラルミュージアムに行ったときにミッフィーが立っていました。360°どこから見てもミッフィーが見えます。とてもかわいかったです。

5 バスの中から見えたたくさんの自転車です。オランダは自転車をよく使う国で環境に優しく、地球温暖化が進む中こういう取り組みもあるのだと思いました。



5

1週間支えて下さったホストファミリーの皆さんです。

平成27年度
Delfzijl
友好親善
訪問団



周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立岐陽中学校 1年

柳 凜

Rin Yanagi



僕が今回の周南市友好親善訪問団を知ったのは、学校で配られたオランダ・デルフザイル市と書いてあった一枚のプリントでした。でも、全く想像できない都市でした。派遣が決めた時、驚いたと同時にうれしさと不安と心配と色々な感情が駆け巡りました。そんな矢先、サッカーの練習中に右手首を骨折し、目の前が真っ白になりました。外科の先生や市のスタッフの方と相談し、渡航OKが出た時は本当にうれしかったです。

さて、準備万端いよいよ出発です。新幹線から飛行機、飛行機は初めてではなかったけれど、十時間以上という飛行時間に加え、初めての海外、どきどきしないわけがありません。機内では、わくわく感あまり眠たくはありませんでした。

渡航二日目、いよいよホストファミリーとの対面です。僕は今回、ホストファミリーに会うことをとても楽しみにしていました。事前に何通ものメールのやりとりをしていたので、不安や心配よりもわくわく感の方が大きかったです。いざ対面すると緊張してうまく会話が出来なかつたけれど、ホストファミリーの優しさで温かさのおかげで緊張感がほぐれてきました。

滞在中は一緒に色々な所へ行きましたが、水族館と博物館がとても印象に残っています。親たことのない魚がたくさんいて、何だか魚達がオランダ語を話しているような気がしました。ある日のお昼、ホストファミリーのお父さんに「ピザを二人で買いに行こう」と言われて二人でドライブを兼ねて隣街まで出かけました。オープンカーでオランダの街を走ってとても気持ち良かったです。



1



2



3

楽しい時間はあっという間に過ぎ、お別れの会になりました。歌は少しうまくいかなかったけれど、折り紙・風船・うちわを配ってとても盛り上がりました。会の食事はお肉、ご飯、スープ、ソーセージなどでした。ご飯は日本よりパサパサしていて日本のお米の方が水分が多く含まれているように感じました。その日の夜は遅くまでホストファミリーとたくさん話をしました。

次の日よいよお別れです。とてもさみしい気持ちになりました。握手をしたり、自分なりに感謝の気持ちを言葉にしたりしましたが、感謝してもきれなくらいたくさん楽しい思い出を下さいました。

さて、日本に帰る日がやってきました。本当にあつという間だったなというのが素直な思いです。初めての海外、一人での荷造り、ユーロという海外貨幣の扱い方、ホストファミリーとの生活、どれを思い返してみてもよい経験させていたんだなと思います。最後になりますが、日本を離れてみて改めて、日本の治安のよさ、街のきれいさ、便利さなど様々なことを感じることが出来ました。これから、今後の自分の人生に役立てていきたいなと思います。本当にありがとうございました。



4



5

- 1 エオリスの風車で、ホストファミリーと撮った1枚です。
- 2 カフェで食べたオムレツです。大きくて下にパンが敷いてあり、とてもおいしかったです。
- 3 消防署で消火活動を体験しました。
- 4 飛行機から撮ったオランダです。お気に入りの写真です。
- 5 最後の日に記念として撮った写真です。これで終わりと思うとすごく悲しくなりました。

平成27年度
De IJzij
友好親善
訪問団



風車の前でホストファミリーと一緒の記念
写真。



周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立富田中学校 2年

渡辺 夏生

Natsuki Watanabe

「May 1 help?」

僕が初めてしゃべった英語です。その時は勇気を出して喋れたうれしい気持ちと喋った言葉が相手に伝わったといううれしさで、心がとてもドキドキしていたのを覚えています。

初め、僕は相手の言葉も分からないし、自分が喋った英語も伝わらないだろうと思っていましたが、実際は違いました。音楽、笑顔、絵、スポーツ、ジェスチャー、これらは全て言葉の通じない相手とコミュニケーションをとる方法で、しかも簡単に相手に自分の気持ちを伝えることができます。特に、僕はオランダに行き音楽のコミュニケーションの力はすごいなと思いました。なぜなら、音楽は一度に何人も人が、自分の出した音を聞いて感動したり、リラックスしたり、元気になったり、たくさんの人とコミュニケーションをとることができるからです。

もう一つ、オランダに行き、言葉が通じない人とコミュニケーションを取るうえで大切だなと思ったことがあります。それは、「笑顔」です。例えば、「Thank you」と言っても、笑顔で言うのと真顔で言うのでは、随分差があります。真顔で言われた方からしてみれば「この人は、口では、「Thank you」と言っているけど、本当は嫌なのではないだろうか？」と疑ってしまい、嫌な気持ちになってしまいます。しかし、笑顔で「ありがとう」言えば、「この人は英語が喋れなくて、僕とコミュニケーションをとることができないけど、喜んでくれるようだ。」とコミュニケーションは、取ることができるのです。

これは、日本でも同じことが言えると思いました。日本では、確かに言葉は通じません。しかし、通じるからこそ笑顔が大切だと気づきました。



2



1

これは、日本でも同じことが言えると思いました。日本では、確かに言葉は通じます。しかし、通じるからこそ笑顔が大切だと気づきました。

言葉が通じない相手とコミュニケーションを取りたい時は、言葉を使わずに二人が、同じ空間に入れることや、ちょっとした動作や仕草などが必要ということが、オランダに行き一番感じました。

僕は今まで、人とコミュニケーションを取ることが苦手でした。しかし、オランダに行き、コミュニケーションを取ることが得意になりました。なぜなら、オランダ人とコミュニケーションを取るのにあんなに苦労したのに、言葉の通じる日本人とコミュニケーションを取ることができないなんてバカバカしいと思えるようになったからです。今では、積極的な性格になり、いろんな人とコミュニケーションがとれることができ、とても幸せです。

僕は、周南市友好親善訪問団に参加して、日頃経験できないようなことを体験できたことにより、視野が広がって、いろんな考え方ができるようになりました。僕にとって本当に有意義な十日間でした。

「May I help?」

「No, Problem Thank you」



3



4



5

1 Anneと一緒にドライブ中に寝ている時の写真

4 教会でパイプオルガンを弾いている時の写真

2 ホストファミリーと一緒に昼食を食べに行った時の写真

5 Anneにミッフィーの本を読んであげている時の写真

3 「かわいい・・・」本当の弟のようなw out



カヌーに初めて乗った時の写真です。
楽しくて2時間ぐらい乗っていました。

周南市友好親善訪問団に参加して

山口県桜ヶ丘高等学校 1年

今浦 朱里

Shuri Imaura

私は、出発する前は楽しみでしかたなかった。しかし、初日のホテルでは不安が頭の中に浮かんで来た。ホストファミリーとコミュニケーションが取ることができるのかと。そして、対面をした日にはとても安心でき、不安は一気に消えさった。

初日のホストファミリーとの夜ご飯は、箸、緑茶、米など日本のものを用意してくれて驚いた。ホストファミリーをしたことがあったみたいで、とても気を利かせてくれたため不自由がなかった。

朝は、オランダの時間で六時頃に起きたため、準備をしてホストマザーのところへ行くと驚かれた。理由は、起きるのが早かったみたいだ。みんなが起きる間は、話し相手になってくれた。その後、スーパーに行ったり、図書館で絵画展の除幕をして写真を撮り、ロイと合流してファームサム探検ツアー、バーベキュー、オランダの遊びなどをした。

次の日はホストファミリーと過ごす日で、マルチニタワ―を上まで螺旋階段を上った。疲れたが、大きな鐘、上からの景色はすごかった。そして、家に一旦帰り、カヌーをしに行った。私は、初めてのカヌーだったため、とても上手とは言えなかったが、とても楽しくできた。約二時間ぐらい乗っていたが、そんなに長いとは感じなかった。

次の日は、バスで市内観光だった。沢山の種類の豚がいる所、エムスホテルでの料理交流会。オランダの方々は、団子が甘すぎたみたいだった。

その日の夕方は、他のホストファミリーとボートに乗って楽しい時間を過ごした。他のボートに乗った人とすれ違ふときは、お互い挨拶をしていた。とても良い国だと感じた。





沢山の人に御迷惑をおかけしましたが、出会い、支えてもらい貴重な経験ができたことに感謝しています。ありがとうございました。

私は、この経験をしてよかったと心から思える。温かいホストファミリーに会うことができ、お互い母国語は通うが、お互いがコミュニケーションを取ろうとすれば取ることができると分かった。

お別れのときは、泣いてしまった。

最後の夜は、手紙をくれたり、ケーキを出してくれた。私は明日帰るといふ実感がわき、寂しかった。

ホストファミリーと過ごす日が丸一日あるのは、この日が最後だった。動物園に行った。雨が降っていたため、動物をあまりみることができなかったが、施設もあり、とても楽しめた。次の日の消防署見学、体験活動では、消防車に乗ったり、ボートに乗ったりして楽しかった。その後、古い教会に行ったり、農場見学をした。私は動物が好きなので、嬉しかった。バーニーズマウンテンドックもいて、可愛かった。その後は、お別れ会をした。私はすでに泣きそうになり、帰りたくはなかった。



- 1 マルティニタワーに登った時の写真です。上からの景色はすごく綺麗でした。
- 2 農場見学に行った時にバーニーズマウンテンドッグと撮りました。とても可愛かったです。
- 3 動物園に行った時のホッキョクグマの写真です。雨が降っていましたが楽しかったです。
- 4 姉妹都市絵画展の除幕をした時の写真です。



平成27年度

Delfzijl

友好親善
訪問団



みんなでボートに乗った時の写真です。

(私は左から5番目)

周南市友好親善訪問団に参加して



山口県立華陵高等学校 1年

北村 優香

Yuka Kitamura

私は友好親善訪問団に参加して、とても貴重な体験をたくさんすることができました。

デルフザイル市に着いてホストファミリーと面会した時は、まだ訪問団員のみんなもいたのであまり緊張はしていませんでした。

しかし、歓迎会が終わってホストファミリーと私だけになると、一気に緊張が襲ってきて、そこで初めてホームステイが始まるんだなと思いました。

ホームステイ一日目は、家についてからすぐ犬の散歩に行きました。ホームステイ先には犬が五匹いて、散歩はかなり大変でした。

そのあと、自転車に乗ってマクドナルドに行きました。自転車は日本の自転車と違って、サドルが高くペダルに足がとどかなくて焦りました。でもすぐに乗ることができました。マクドナルドはメニューが豊富でした。

ホームステイ二日目は、みんなでバーベキューをしたあと、オランダの伝統ゲームをして遊びました。言葉は伝わりにくかったけど積極的にやり方を教えてくれたので、とても楽しかったです。

ホームステイ三日目は、午前はホストファミリーと他の訪問団員何人かとそのホストファミリーでキャンダル作りを体験しました。午後からは、ホストマザーの妹が住んでいるテルムンテンに行きました。そこは、道路で普通に羊が歩いていたのでとてもびっくりしました。

ホームステイ四日目は、バスで豚だけの動物園に行き、エムスホテルで料理交流会をし、美術館を見に行きました。

ホームステイ五日目は、ホストファミリーとフローニンゲンに買い物に行きました。そこにあつた教会に登り、綺麗な景色を一望することができました。夜は他のホストファミリーの家に行って、みんなでボートに乗りました。日本ではこういう事ができないので本当に楽しかったです。



ホームステイ最終日は、みんなで消防署に行き、いろんな体験をしたあと、テルムンテンを散歩しました。テルムンテンにあった教会が本当に綺麗だったのでもう一度見たいです。夜はお別れ会をしました。そこで初めてマスタードスープを飲んだのですが苦手な味でした。そして次の日の朝、デルフザイル市を出発する時になりました。本当に帰りたくなかったので涙が止まりませんでした。

このホームステイを通して、コミュニケーションの大切さや、自分の良さを改善しなければならぬ所を学ぶ事ができました。これは自分の将来の夢に大きな与えられると思います。

訪問団員になれて一生忘れられない思い出を作る事ができました。本当にありがとうございました。



- 1 オランダの伝統ゲームをして遊んだ時の写真です。
- 2 テルムンテンにあった教会の写真です。本当に綺麗でした。
- 3 ヌトレヒトのドム塔の写真です。
- 4 ヌトレヒトのセントラルミュージアムに行った時に見つけたミッフィーの写真です。
- 5 アムステルダム市内を観光した時の写真です。



ホストファミリーと対面後に記念撮影を
しました。緊張で表情がごちないです。

平成27年度
Delfzijl
友好親善
訪問団



周南市友好親善訪問団に参加して



聖光高等学校 2年

廣林 晃

Hikaru Hirobayashi

私は、小学六年と中学二年の時にデルフザイル市からの訪問団のホストファミリーをしたことがあったので、オランダのこととは少し見聞きしたことがありましたが、いざ自分が訪問するとなると、とても緊張していました。その緊張が一番ピークだったのはホストファミリーとの対面の時です。対面後すぐに一緒に写真を撮りました。まだ表情がごちないです。

ホストファミリーは五人家族でしたが、姉二人は成人していたので家にはホストマザーのモニー、ホストファザーのフレッド、十七歳の男の子のヨージの三人でした。面会の時、とても優しい笑顔で迎えてくれて私の緊張は一気にほぐれました。ホストファミリーの家に帰った時、「靴を脱ぐ」ということに驚きました。海外では靴のまま家上がると思っていたからです。海外でも家によって習慣が違うなと感じました。

私は英語が苦手なので、出発前に、コミュニケーションが取りやすいようにいろいろと準備をしていきました。まず、自分の写真集を作っていました。高校の教室の様子や、クラスメイト、親友、自分の家や家族、ペットの写真や自宅近辺の景色の写真などを載せ、それに英語で説明を書いていきました。初日にホストファミリーにこれを見てもらい、自分のことを知ってもらえたと思います。家ではメモ帳とペンを持ち、聞き取れなかった言葉を書いてもらったりしてコミュニケーションをとりました。何回も聞き返したりしましたがこんな私でも嫌な顔もせず、温かく接してくれてとても嬉しく安心し、のびのびと生活することができました。

私が一番心に残っているのは、ホストマザーの作ってくれた食事です。全て手作りでした。毎朝、自分で果物を選んで作るフレッシュジュース、それと焼き立てパン。夜はサラダ、メイン、最後に必ずデザートが出ました。私がチキンスープをおいしそ



- 1、2 ホームステイした家の一番近くの浜辺に、ホストファミリーと自転車で行った時の写真です。一緒に映っているのは、ホストファミリーで、僕と同じ歳の17歳のヨージランです。
- 3 ホストマザーの食事は全て手作りで大変おいしかったです。
- 4 セーリングをした時の写真です。セーリングは、ホストファミリーの趣味の1つで、この日は船の上で、のんびりしました。

うにおかわりをして見えたのを見て、ホストマザーはお別れの日の朝にチキンスープを作ってくれていて、感激しました。

フリーデー一日目は、家族の趣味であるセーリングに行き、海の上でのんびりしました。二日目はオランダで一番高いドム塔にのぼりました。その後、家族とショッピングで、私と一緒に日本の家族へのお土産を選んでくれました。

家では夕食の後、日本から準備していたお土産を毎日ひとつずつ出しました。毎日出すのでホストファミリーは驚いて喜んでくれました。日本のお香や、和のロウソクなど使い方を説明したりし、会話がはずみました。

最後に、この友好親善訪問団の一員としてテルフザイル市を訪問できたこと大変感謝しています。背中を押してくれた学校の先生、応援してくれた家族、友達に感謝の気持ちでいっぱいです。一緒に行動を共にしてくれた日本の仲間たち、市役所の方々がいてくれたので心強く、のびのび体験することができました。この経験は私の将来の夢へとつながると思います。



食文化交流会で一緒に調理をしたオランダ人シェフの方たちです。左から2番目が滞在中お世話になったポアさんです。



周南市友好親善訪問団に参加して

食文化交流会参加者

今倉 満枝

Mitsue Imakura

私はこの度、デルフザイル市で開催された食文化交流会に於いて日本の家庭料理を紹介するために、周南市友好親善訪問団の一員として参加させていただきました。

お話をいただいた時は、海外へ出かけた事の無い私が、デルフザイル市の方々と一緒に料理し、家庭料理を伝える事ができるだろうか、コミュニケーションはどうすれば良いのだろうかとても不安でした。しかし最近、海外で日本食が見直されブームになっています。普段、家族と食べている料理であれば、私は頑張ってデルフザイル市の皆さんに喜んで食べていただける料理を作りたいと心動かされ参加させていただきました。

デルフザイル市での宿泊先エムスホテルは食文化交流会の会場でもありました。八月一日は、ホテルのオーナーのポアさん御夫婦と郊外の業者専用大型スーパーへ食材の買い出しに同行しました。日本の食材はもちろん、他国の食材、調味料、料理に関する器具などの品揃えの多さに驚かされました。道中、ポアさんの知人のホテルに伺い、厨房での作業、食材の保存方法、生ごみ処理の方法、パーティー会場、宿泊室などオランダのホテルの仕組みを紹介していただきました。エムスホテルに帰ってからは、本番に備え、厨房でアラカルトメニューとして、巻き寿司を作り、実際レストランでお客様に提供しました。オランダは、東南アジアの米が使われている為、寿司飯として心配でしたが、お客様の笑みに緊張が解かれました。ポアさんは、お寿司が大好きで、時々味見しながら、器の飾り付けにハーブを添え、オランダ風にとっても美しく盛り合わせしてくださいました。

八月三日、食文化交流会当日は、昼の部・夜の部があり、早朝から調理に取り掛かりました。昼からは四人のデ



ルフザイル市のシェフの方々と一緒に料理しました。私は身振り、手振り、いつの間にかためらう事なく、山口弁で我が家で調理している様でした。その夜、テレビのニュースで食文化交流会の様様が放送されているのを見て、自分の姿にびっくりしました。

調理の途中では、コーヒープレイクになると皆さん「サツ」と厨房から出られます。私も誘ってくださって有難かったのですが、食文化交流会開始までに早く仕上げなければという思いにとても休憩に入る事はできませんでした。焦っているのは私ばかりか……。その間、次の段取りをしながらも、使った事の無い調理器具に悪戦苦闘。とても不安でした。その後、全ての料理が時間通りに仕上がりに食文化交流会の会場から「オッケー」の合図に一安心。体から力が抜けるようでした。しかし、シェフの皆さんと「ヤー、ヤー」「タッチ、タッチ」と喜んだ事は、帰国してからも思い出されます。

食文化交流会に来て下さった約百名の方々に、日本の家庭料理がお口に合ったどうかと、少し不安も有りましたが、各テーブルから美味しい、美味しいとの声。その後も会場は盛り上がり、完食となりました。日本の食文化の素晴らしさを紹介するという役割は果たせたのではないかと思います。

食文化交流会の翌日からは、肩の荷が下りたのか、心置きなく滞在プログラムを楽しめた様に思えます。今回の訪問は、初めて経験することばかりで、多くを学び有意義な時間でした。姉妹都市交流財団の皆さん、食文化交流会に協力してくださったボアさん、滞在中お世話になった方々、訪問団員の皆さん、すべての方々に大変感謝しております。有難うございました。

- 1 フローニンゲン市郊外にある大型スーパーへ買い出し行った時の写真です。品揃えが抜群でした。
- 2 ホテルの厨房には炊飯器が無く、大きなパットに炊き込みご飯の材料を入れてオープンのような調理器具でご飯を炊きました。
- 3 食文化交流会では、下記の日本の家庭料理を振る舞いました。
 - ・肉じゃが ・鶏の唐揚げ ・餃子の唐揚げ ・お好み焼き
 - ・焼きそば ・海老と野菜のかき揚げ ・サーモンのにぎり寿司
 - ・豚汁 ・炊き込みご飯のおむすび ・オレンジのゼリー
 - ・三色団子
- 4 たくさんの方に美味しいと言っていただきました。
- 5 食文化交流会の様子は地元テレビでも放送されました。



食文化交流会で日本酒をしっかり
PRしてきました

周南市友好親善訪問団に参加して



食文化交流会参加者

原田 康宏

Yasuhiro Harada

山口県の地酒の出荷量は、現在八年連続増加中で、全国的にも注目を浴びています。一方、日本酒の輸出に関しては十年前と比較すると約二倍になっており、和食の世界遺産登録も相まって、今後ますます増加傾向にあります。

そんな中、この度は、私に周南市友好親善訪問団として、デルフザイル市に周南の地酒をPRする機会を与えていただきましたことに対し、先ずもって関係各位に深く感謝申し上げます。

お話を頂いた当初は、十日間も会社を留守にすることもあり、どうしたものかと慎重に考えておりましたが、アメリカやアジアと比較すると、日本酒の輸出がいまいち伸び悩んでいるヨーロッパで日本酒(周南の地酒)をPRできるというチャンスはめったに無いと思い、デルフザイル行きを決断しました。

PRの場となった食文化交流会では、同行した今倉シェフの料理が振る舞われ、それに合わせるように周南の地酒を紹介させていただきました。オランダではまだまだ日本酒は知られておらず、恐る恐る、不思議そうに日本酒に口をつけている姿が印象的でした。しかし、最後には笑顔で日本酒を楽しんでいる姿を見る事が出来、一安心でした。今回のPRがオランダへの日本酒輸出の架け橋になれば幸いです。ただ、今回はなかなかオランダへの日本酒の輸送が難しく、訪問団の大人四人が限度のリットルずつの日本酒を手荷物で持っていくしか方法がなかったため、食文化交流会参加者へ充分の量の日本酒を振る舞う事が出来なかったことが心残りでした。



今回、私の任務は食文化交流会での日本酒のPRでしたので、その他の時間は観光地巡りやクルージング、企業視察、農場訪問など地元の方々に様々なプログラムを用意していただきました。その間、ずっと同行していただいたロビーさんとリチャードさんには大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。最後になりますが、私にとってこの十日間は、人生の充電期間になったような気がします。非常に過ごしやすい気候の中(日本では連日猛暑日だっただろう)、朝起きてカーテンを開けると目の前に広がる海と水平線から昇ってくる朝日、その中での毎朝の散歩と読書、食文化交流会と観光を含め非常に充実した時間を過ごさせていただきました。このような貴重な時間を過ごさせてくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



- 1 クルージングをした時の写真です。
- 2 ホテルから見える朝日の写真です。
- 3 美しい街並みの前で記念撮影。1番右は今回お世話になったリチャードさんです。
- 4 お別れ会では、オランダのジン「ジェネバ」というお酒をいただきました。



デルフザイル市で滞在したエムホテルの前で。滞在中はずっと周南市の市旗を掲揚してくださいました。



周南市友好親善訪問団に参加して

周南市役所地域振興部観光交流課

徳原 常臣

Tsuneomi Tokuhara

周南市の国際交流業務の担当となり二年目を迎える今年、私は、デルフザイル市へ派遣する友好親善訪問団に同行させていただくことになりました。昨年、デルフザイル市訪問団を周南市へ受け入れた際に交流を深めた方々と再会できることを楽しみにしながらも、まずは団員全員が、楽しく充実した時間を過ごせるようにサポートすること、また、食文化交流会を成功させることを自分の役割として考えていました。

デルフザイル市では、姉妹都市交流財団の方や市役所職員、ホストファミリーなどたくさんの方々が市民に温かく迎えていただき、歓迎会が行われました。青少年の団員にとって、いよいよホストファミリーと対面するというところで緊張の様子がうかがえました。歓迎会の後、各自ホストファミリーの家に向かい、ホームステイの始まりです。不安げな表情の団員を見送っていると、みんな大丈夫だろうかと心配になりました。

しかし、翌日、団員たちに出会ってみると、私の心配をよそにホストファミリーと仲良くコミュニケーションを取る彼らの姿がありました。わずか一晩でホストファミリーと打ち解ける団員たちの適応力には私も驚かされました。デルフザイル市を発つ時には、団員それぞれが、ホストファミリーの家族に一人のような存在になっていて、団員だけでなくホストファミリーも涙している姿は感動的でした。団員たちには、この時のデルフザイル市やホストファミリーを大切に思う気持ちをいつまでも持ち続けてほしいと思います。

食文化交流会については、昨年、周南市を訪問されたオランダ人シェフのポアさんが、この日のために食材の調達から現地の料理人への参加呼びかけなど準備をしっかりと整えてくださり、大きなアクシデントもなく無事に終えることができました。



した。調理を担当した今倉さん、日本酒を紹介する原田さんのお力により参加者の満足度も高く、日本の食文化の魅力や素晴らしさを十分に伝えることができました。また、食文化交流会の開催の様子は、現地のテレビ局で、ニュースとして繰り返し放送され、参加できなかった方にも広く日本の食文化を紹介することができ、結果としては大成功と言えると思います。

今回の訪問を通じて、私は、デルフザイル市の方々の温かさに触れ、本当に周南市を大切に思ってくれていることを実感しました。関係者の方には献身的なサポート「おもてなし」をしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。それと同時に、姉妹都市提携を結んで二十五年間で両市が築き上げた素晴らしい関係を今後も継続していかなければいけないと強く感じました。

来年は、私たちがデルフザイル市からの訪問団をお迎えする番です。今回の訪問で感じた感謝の気持ちを忘れることなくしっかりとおもてなしをしたいと思えます。



- 1 運河に架かる橋は船を通すために上昇する仕組みになっています。
- 2 エムホテルのシェフのポアさんとは1年ぶりの再会。滞在中は美味しい食事をありがとうございました。
- 3 オランダといえばチーズ。大型スーパーのチーズコーナーにはたくさんの種類のチーズが売られていました。実際はチーズだけでこの3倍ぐらいの売り場面積がありました。
- 4 食文化交流会の会場にもなったエムホテルは海の上に建てられていて、ホテルからの眺めは最高です。海の向こうにはドイツが見えました。
- 5 お別れ会の時に日の丸のコースターが用意されていました。さりげない心遣いに感動しました。



お別れ会ではたくさんのメッセージと
おいしい料理をいただき、感謝の気持
ちでいっぱいになりました。



周南市友好親善訪問団に参加して

周南市役所環境生活部生活安全課

山本 次雄

Tsugio Yamamoto

周南市とオランダ・デルフザイル市との友好親善訪問は、旧新南陽市時代の平成二年から二十年以上に亘り続いている交流事業です。

私はその団長として、九人の青少年と食文化交流等の参加者二人と共に、十日間の日程で両市の友好を深めて参りました。

この度の訪問で私が団長の責務と考えていたことは、一つは全員が元気に周南市へ帰ってくることで、二つ目は両市の友好の輪を広げて今後へ繋げること、三つ目は青少年が異文化交流や多くの体験を通して広い視野と深い思慮を身につけることでした。

そのような思いを胸に、七月三十日に訪問団は周南市を出発しました。出発から帰国する八月八日までの天候は、途中で一日だけ雨降りがあったものの、あとは晴天に恵まれました。また、オランダでは気温が二十度を少し上回る程度で、非常に快適に過ごすことができました。

団員の中には出発前日に微熱があった者もいたので心配していましたが、福岡空港出発前には食欲もあり安心しました。また、行きの飛行機が乱気流に遭い少し揺れたことで、乗り物酔いをした団員がいましたが、その後の夕食の時には元気な様子で皆と過ごしていました。ホームステイ先では体中を蚊のような虫に刺された団員がいましたが、虫刺され用の薬を購入して塗ったところ、かゆみも治まったようでした。

海外へ行くことと食事が合わず苦労する人も多いようですが、全員食欲が落ちなかったのも、元気に帰国することができたように思います。

- 1 ホテルからはデルフザイル市の中心街を臨むことができました。
- 2 デルフザイル市には事故防止に効果があるといわれている、信号機の無いラウンドアバウト式の交差点が多く見られました。
- 3 オランダには多くの風力発電施設が整備されていて、環境やエネルギー問題への意識の高さを感じました。
- 4 オランダは国民一人あたりの自転車保有率が世界一だけあって、駐輪場の多さには驚かされました。ここフローニンゲン駅前駐輪場だけで 6000 台程度停められるそうです。

おもてなしの心によるものと実感しております。

デルフザイル市とは実質は六日間の交流ではありましたが、歴史や文化、言葉や習慣も違うもの同士が、これほどまでお互いを理解しようとし、尊重し合える素晴らしさを体験できたことは、私にとって大きな財産となりました。そして、皆さんの心の温かさを終始感じながら、本当に有意義な時間を過ごすことができたことに、心から感謝しております。

青少年はホームステイ、同行者は視察や食文化交流会を通じて、多くのデルフザイル市の皆さんと語り合い、共に過ごすことで交流を深め、友好の輪を広げることができました。

団員の多くはオランダ語や英語が堪能なわけではありませんでしたが、特に青少年は短期間でコミュニケーションを取ることを学び、それぞれのグループ調査を確実に行っていました。また、ホストファミリーとの交流が深まるにつれて積極性は増し、その適応能力の高さには驚かされるものがありました。

このように私が出発前に考えていた目標の全てが達成できたと思っております。もちろん、友好親善訪問の目的が達成できたのは、デルフザイル市や関係の皆さんの細やかな気配りや、温かいおもてなしの心によるものと実感しております。



☆☆ Pictures ☆☆

デルフザイル市訪問までの事前説明会や帰国後の報告会の様子を紹介します。



事前説明会の様子（6月～7月）



5月16日 募集説明会（徳山保健センターにて）



お別れ会の出し物決め



オランダの文化を事前に学習

7月25日（土）杜行会 市民館

杜行会には、訪問団員が在籍する学校関係者等も出席され、デルフザイル市訪問に向け、訪問団員一人ひとりが目標や決意を発表しました。



決意を発表する訪問団員



杜行会後の記念写真

7月30日（木）出発

いよいよ出発の日です！

当日は出発にふさわしい天候に恵まれました。保護者の方に見送られ、周南市を出発しました。



8月8日（土）帰国

あっという間の10日間が過ぎ、帰国の日を迎えました！
久しぶりの家族との再会に安堵の表情があふれていました。



9月12日（土）報告会 周南市文化会館

帰国後、報告会を開催しました。訪問団員一人ひとりが現地で撮影した写真を紹介しながら、滞在中、印象に残ったことや現地の人たちとの交流について報告しました。この訪問の学びや経験を、これからの人生に生かしてほしいと思います。そして、デルフザイル市の方や訪問団員同士、今後も末永く交流を続けていただきたいです。



Delfzijl



Amsterdam



Utrecht



Food Exchange Program



Delfzijl Map





発行 周南市 地域振興部 観光交流課
コンベンション・国際交流推進担当

〒745-0045

山口県周南市徳山港町1-1

TEL (0834) 22-8372

FAX (0834) 22-8357

<http://www.city.shunan.lg.jp>